

GK情報レポート

【2005年発行】

vol. 6

秋号

発行者

権田金属工業株式会社 営業部

神奈川県相模原市宮下1-1-16

電話 042-700-0221

FAX 042-700-0660

E-mail: eigyo@gondametal.co.jp

<http://www.gondametal.co.jp>

Contents

注目記事⇒今号は、当社権田社長・松沢神奈川県知事の

定例記者会見記事を掲載しています（1ページ）

1. マグネシウムのご案内（展示会・開発状況）
2. カドミウム系黄銅「カドミン CN シリーズ」《続報》
3. 鍛造品・加工品の受注実績ご紹介《続報》
4. GK沿革（第5回）…「第三代権田藤三郎」時代
5. GKギャラリー…グループ企業「権田運輸」紹介
6. 相場情報…2005年度・第3四半期見通し

皆様でご回覧下さい

回 覧 印										
-------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※バックナンバー（Vol.1～5）をご用意しております。ご希望の方は当社営業部までお気軽にお問い合わせ下さい

権田金属工業株式会社

1. マグネシウムのご案内（開発の状況・展示会のご案内）

＝開発の状況について＝

神奈川県ではインベスト神奈川助成金制度(施設整備等助成金)がありますが、当社ではこの助成金の申請を8月31日(水)午後行いました。当日は松沢神奈川県知事の定例記者会見の席上に権田社長が同席しマグネシウム合金薄板の量産化の説明を致しました。この神奈川県の助成金制度は先端技術を用いての研究開発施設や生産工場が対象となるものです。

2006年6月に設備を導入し本格的に稼働させる予定です。双ロール鋳造方式(弊社特許取得済み)の製造ラインで、幅400ミリのMg合金の薄板を月間10トン生産できる体制を整え、将来は幅600ミリの薄板を生産する計画です。当社の双ロール鋳造法は従来の製法とは異なり厚さ2～6ミリの薄板を溶湯から直接生産でき、鋳造速度は従来に比べ大幅に早くできます。これによって、圧延の仕事量を軽減することができ、工程の簡略化が可能となり、従来よりも結晶組織が緻密な高品質製品を製造することができるのも特徴です。また、圧延板材とすることにより、結晶粒がさらに微細化、機械的特性や塑性加工性をさらに高める効果があります。

マグネシウムは実用金属の中で最も軽い素材として知られ、優れたシールド性やリサイクル性をもつため、家電機器分野や自動車分野などで需要が高まっており、品質・価格の安定した薄板の供給が求められております。マグネシウム合金の薄板につきましては、前回春号(vol.4)でご紹介させて頂きましたのでご参照下さい。



8月31日(水)神奈川県庁知事室で知事と懇談、定例記者会見同席
(写真) 左 権田社長 中央 松沢知事



(写真) 左 権田社長 右 松沢知事

＝展示会のご案内＝

先端企業・大学・研究機関との技術交流と連携の促進を目的とした「モノづくりネットワーク交流フェア in 燕三条」に当社のマグネシウム研究成果を出展し、事業計画について発表する予定です。

開催日：11月17日(木)・18日(金)

主催：(財)新潟県県央地域地場産業振興センター

問い合わせ先：TEL 0256-35-5395

ホームページ：http://www.kenohjiba.or.jp

2. カドミウム黄銅 **カドミン CN シリーズ** 《続報》

◆ 当社の取組み・受注実績 ◆

さて当社でも「RoHS 指令要求」に対応する黄銅棒、**カドミン CN シリーズ**の製造・販売を既に本年6月より開始しております。

Cd含有量は**100ppm以下**と**75ppm以下**の2タイプをご用意しております。

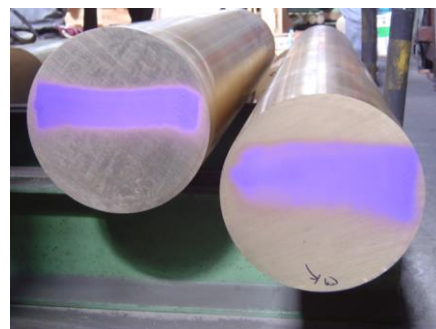
傾向としましては**75ppm以下**タイプの受注が圧倒的に多くなっています。

サイズは**40φ～450φ超**と幅広く、品種も**快削黄銅系・鍛造用黄銅系・**

ネーバル黄銅系・高力黄銅系といった

従来の黄銅棒に対応して製造を行っています。

また製品の端面には「**紫色**」の着色を施し、従来品と区別をしています。



当社の得意とする極太物の黄銅棒は、大量の原料を使用するため、細物・中径サイズの量産メーカーと比べ”製造コストが余計にかかる”という問題点がありますが、当社では「カドミウム許容量」・「使用原料」・「分析方法」の3つの取り組みでコストを抑え、万全の品質管理を行っています。

「カドミウム許容量」・・・RoHS 指令とコストの兼ね合い考慮し”100ppm以下”と”75ppm以下”の2タイプを設定。これ以下の許容量の要望には個別対応いたします。

「使用原料」・・・ロットごとに基準を満たした厳選した銅スクラップ・黄銅切粉・再生亜鉛を使用します。また、75ppm以下のものには電気亜鉛も使用します。

「分析方法」・・・カドミウムの分析には、入手済サンプルで標準化した「原子吸光光度計」を使用します。また中間製造工程では補助的に「蛍光X線分析装置」や「スペクトロ発光分光分析器」も使用し、万全の体制でカドミウム含有量を管理いたします。ちなみにカドミウムの分析は「原子吸光光度計」と「高周波誘導結合プラズマ発光分光分析装置＝通称“ICP”」のみが規定に認められている分析方法です。

当社の RoHS 指令対応黄銅棒 **カドミンCNシリーズ** は既に各業界の需要家様より
引合い・ご注文を頂戴し納入開始しております！（主な需要家様の業界は次の通りです）

光学機器メーカー ・ 測定器メーカー ・ 制御装置メーカー、
電機機器メーカー ・ 医療機メーカー ・ その他産業メーカー様

◆ **カドミンCNシリーズ** 要望の背景 ◆

※「要望の背景」はお問い合わせが多い為、前月号の内容を集約し今号でも掲載いたします。

EUは環境に関する基本理念として、EU条約(欧州共同体を設立する条約)174条に
「環境政策の目的」という条項があります。

今から4年前、日本においてこの環境対応の厳しさを実感させられた事件がありました。

日本の総合家電メーカーA社は、2001年10月にオランダ税関から、家庭用ゲーム機の部
品に規制を超えるカドミウムを検出したとして、「汚染者負担の原則」(＝持込者の責任)に
より、製品の陸揚げを差し止められました。この事を受けA社は欧州向けの出荷を急遽止
めて、全てを対象に部品交換をせざるを得ませんでした。これにより出荷再開が2ヶ月延び
て売上げは激減、部品交換の費用と合わせて多額の損失を出したのです。

その RoHS 指令が、2006年7月よりいよいよ施行される時となりました。

※ RoHS 指令とは・・・(Restriction of the use of certain Hazardous Substances in electrical and
electronic equipment)の略。日本名で「特定有害物質使用制限指令」の事。電気・電子機器
における特定有害物質の使用制限に関する欧州連合(EU)の指令です。使用を制限され
る物質は6種類(鉛、水銀:1,000ppm以下、カドミウム:100ppm以下、六価クロム:1,000ppm
以下、ポリ臭化ビフェニール、ポリ臭化ディフェニルエーテル)。

銅合金(含、改削黄銅棒)に含まれる鉛についてのみ、当面4.0%(40,000ppm)までの含有を
許容する『適用除外』の規定が設定されています。ただし、代替素材が開発、普及された段
階で『適用除外』の規定を解除する事となっています。

2003年2月発効、2006年7月1日施行、それ以降にEUで上市されるパソコン、テレビなど
の家電製品、電子機器は6物質の使用が制限されます。日本の企業が輸出する製品にも
この RoHS 指令が適用されます。製造工程、在庫を考慮して逆算すると、1年程度前には
特定有害物質への対応を済ませる事が必要となり、関係各社はその対応を進めています。

カドミンCNシリーズ (価格・仕様・ロット等) のお問い合わせは・・・

権田金属工業(株)・営業部までお気軽にお問い合わせ下さい。

(記者 吉田・小川)

3. 鍛造加工実績紹介(特殊合金フリー鍛造)

権田金属工業では、太物の銅・黄銅丸棒を製造する為の1000tプレス機を所有しています。

1年程前、ある需要家様が、銅ブスバーの新規ご注文に伴い、当社の工場見学の為に来社され、当社設備をご覧になる機会がありました。その際、銅ブスバーには直接関係ありませんでしたが、鍛造工場を見学され工場内の1000tプレス機に目を向けられました。その需要家様は、たまたま特殊合金を鍛造出来る業者を探しており、当社に鍛造の検討を依頼されました。当社にとってその合金の鍛造は初めての経験でしたが、先方の会社から技術者の方が来社され、技術指導を受けながら鍛造加工に挑戦しました。当初は試行錯誤の連続でしたが、現在ではリピートオーダーも頂戴し、多くの経験を積むことが出来ました。

別件の工場見学がきっかけとなって、新しい鍛造の仕事に結びついた例です。この様に権田金属工業では今後も新しい仕事に積極的に取り組んで参ります。鍛造に関しては、以前にも増して活発なお引き合いを頂戴する様になり、上記以外の特殊合金の鍛造もスタートしました。(記者・日吉)



1000トン油圧プレス機
(日本製鋼所製)

熱間鍛造後の材料(奥から丸棒形状、
平角形状、四角棒形状)

4. 権田金属の沿革

沿革（第5回）権田伸銅所設立

昭和19年に法人化、株式会社権田伸銅所を設立。

昭和13年に海軍省指定工場になりました。藤三郎は持ち前の研究心を発揮、高力黄銅棒、マンガン青銅棒、アルミニウム青銅棒、ニッケル青銅棒、ネーバル黄銅棒などの製造に力を注ぎました。

昭和16年12月8日、帝国海軍によるハワイの米国艦隊奇襲を機に始まった、太平洋戦争で権田伸銅所はさらに軍需省管理工場になり、これをバネに権田藤三郎はそれまで個人経営だった会社の法人化を計画、昭和19年11月9日、株式会社権田伸銅所（資本金75万円）を設立することになり、初代社長に就任しました。

しかし、翌20年5月29日、会社工場は米軍による空襲にあつて損壊、その復興に努めていた8月15日に日本は降伏し、終戦になりました。

創業以来、大正11年の大旋風、12年の関東大震災そして昭和20年の空襲と3度も被災にあった権田藤三郎は終戦時になり実子がないこともあつて、生まれ故郷の根府川に帰り、ミカン栽培をしながら老後を送ろうと弱気になっていました。

ところが、得意先から工場再開を励まされ、改めて企業の存続を決意するのでありました。

続く

（80周年記念誌「あゆみ」より）

5. メンバー紹介…「権田運輸の巻」

権田金属工業の関連会社、権田運輸株式会社は昭和53年4月に設立されました。権田運輸は権田金属工業の製品輸送・納品業務を専門にしており、特に伸銅品の取り扱いには慣れております。

現在、4台の平ボディ車（7トン車が2台、5トン車と4トン車が各1台）を保有し、関東エリアを中心に、北は青森、南は広島迄カバーしております。

安全運転、安全運行に徹し、6080日間※（約16年半）無事故記録を継続中です。

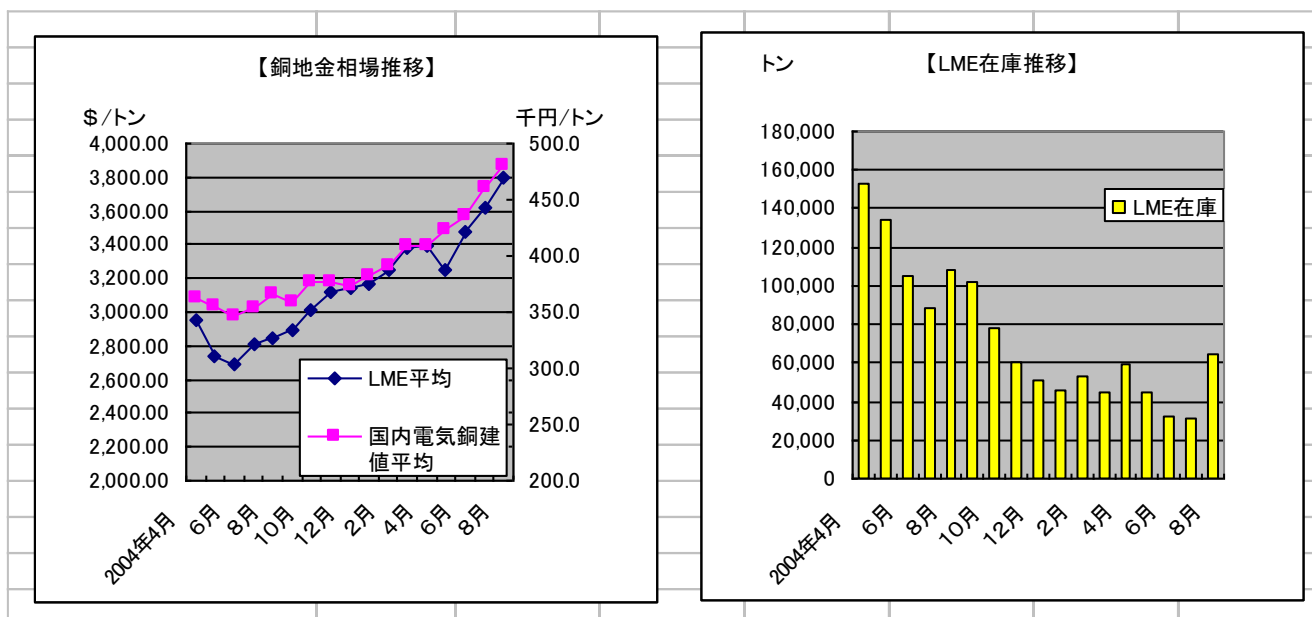
その正確な輸送・納入にはお客様よりお褒めの言葉も頂戴しております。

今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

※2005年9月30日現在



5. 相場情報（2005年度・第3四半期）



◆電気銅建値推移◆

7月・・・450円スタート（平均 461.0円）

8月・・・480円スタート（平均 477.8円）

9月・・・480円スタート（平均 480.0円）

→10月は500円のスタートは1990年8月13日以来(15年振り)の高値となった。


10月6日には、25年ぶりの520円となった。

◆LME在庫状況及び需給状況◆

LMEの在庫状況は、最低レベルの2万トン台から順調に増加し一時期は8万トン台のレベルまで達した。銅の現物需給の逼迫感は続いており、また7万トン台へと減少している。

最近の最多量の8万トンは、世界の需要量の2日分の在庫量であり依然として歴史的な低水準である。産銅メーカーでも高相場を背景に増産の方向にはあるものの、北米産銅大手アサルコ社では労働争議が勃発し、増産は遅れている。

日本の住友金属鉱山他をはじめ各国の銅精錬メーカーは増産体制の強化傾向にあるが、タイ、インド等の精錬所の増強は遅れている。需要は一時期の勢いは薄れたと言われている中国を中心に、世界的に経済は右肩上りであり、今後も需要は堅調に推移するものと思われる。



◆現在の相場状況◆

現在の高相場の主要因は、投機資金そのものである。

原油や金の急騰に追随する格好でファンド筋の投機資金が活発に流入し、銅の現物相場は4千ドルの大台に達した。

米国を襲った2つの大型ハリケーンによる原油生産への影響懸念、これに伴うエネルギーコストアップからのインフレ懸念が急速に高まり、投機資金の流入対象となっている。

◆為替の見通し◆

FRB(米連邦準備制度理事会)が0.75%の利上げを実施した為に、ドル高、円安の傾向にある。

しかし米国を襲ったハリケーンの被害時期と重なり、市場では時期不相応との不評も多い。

米国の抱える双子の赤字(財政、貿易)はまだまだ改善されず、イラク問題の長期化、

ハリケーン被害に対する遅い対応への非難等、米国の抱える問題は蓄積している。

これらのことから、このままドル高傾向が継続されるとは推測できない。

◆相場の見通し◆

現状の高相場が投機資金に支えられているが、買われたファンドのポジションは利益確定のため必ず売りに出てくるはずである。

要点は、その時期である。一部には、年内にもその時期が到来するとの予測もある。

◆相場予測◆

短期予測(1M) : LME\$3,800~4,200 為替¥113~117 銅建値¥480~540

中期予測(3M) : LME\$3,600~4,400 為替¥110~117 銅建値¥460~560

(記者 吉田)